

大項目	1	コロナ禍の高齢者について
質問事項	(1)コロナ禍における高齢者の日々の生活について ①高齢者の通いの場が運営できた時の展望を教えてください。 ②古河市認定ヘルパー、代読、代筆情報支援員 さまざまな講習受講者の活用は考えていますか。	
答弁内容 I	今後につきましても、「通いの場」は、高齢者の閉じこもりを防ぎ、生きがいづくりや社会参加が介護予防につながることを鑑み、感染予防対策に十分留意した上で実施していく。 また、併せて、「地域共生社会の実現」を目指し高齢者に限らず、地域のさまざまな世代の市民の方々同士が、互いに支援し合うことのできる「交流の場」や、「地域づくり」につきましても、より一層、力を入れて推進していく。 サロン等の現状としては、古河社協が支援する「ふれあい いきいきサロン」が市内58か所、地域で運営しているカフェが1か所ある。	

【取組状況 I】

<p>・「通いの場」、「交流の場」、「地域づくり」への対応 令和2年度の「地域力強化推進事業」の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政自治会が実施する予定のサロン、カフェ、住民同士の交流を図る場の立ち上げ支援件数 11件 ・地域住民活動の場での相談件数 26件(実数) ・「ふれあい いきいきサロン」 58か所 ・地域で運営しているカフェ 1か所 <p>令和3年度の「地域力強化推進事業」の実績 (令和4年1月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政自治会が実施する予定のサロン、カフェ、住民同士の交流を図る場の立ち上げ支援 2件 ・地域住民活動の場での相談件数 10件(実数) ・「ふれあい いきいきサロン」 53か所 ・地域で運営しているカフェ 0か所 	
---	--

答弁内容 II	<p>平成26年度から視覚障がい者や高齢者など、文字を読んだり書いたりすることが困難な方々が円滑に情報を取得、利用し意思表示や意思疎通が図れるよう、読み書き(代読・代筆)情報支援員を養成する講座を開設しております。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、予定しておりました講座をやむなく中止いたしました。平成30年度の受講者数は27名であり、市の職員が17名、一般の方が10名となっております。</p> <p>しかし一方で、一般公募で参加していただき、情報支援員として養成された方々の活躍の場はきちんと設けられていないのが現状です。今後は、この情報支援員の方々が、さらに代読・代筆の技術をスキルアップさせ、地域の通いの場などで自主的な活動ができるような支援を行っていききたいと思います。</p>
---------	--

【取組状況 II】

<p>今後も引き続き、読み書き(代読・代筆)情報支援員養成講座を実施し、養成講座で得た知識を地域で生かしていく活動の場の情報提供など、人材活用を推進していきます。</p>

答弁内容 III	<p>櫻井議員のコロナ禍の高齢者の通いの場における、シルバーリハビリ体操教室等の取り組みについてのご質問にお答えします。</p> <p>(1)コロナ禍における高齢者の日々の生活について ①シルバーリハビリ体操教室は、「古河シルバーリハビリ体操指導士の会」が中心となり開催している体操教室となっており、「住民主体の通いの場」として、高齢者のフレイル予防対策としても大きな役割をもっているものと思っております。今後感染状況を見ながら、早期再開に向け、努力してまいります。</p> <p>なお、シルバーリハビリ体操は「道具を使わずにいつでも、どこでも、一人でも簡単にできる」介護予防のための体操です。コロナ禍の中、自宅でも体操ができるよう動画を作成し市ホームページに掲載している他、ケーブルテレビでの放映(11月)や広報(1月号)掲載等を行い、市民の皆様にお知らせしておりますので、活用をお願いいたします。</p>
----------	--

【取組状況 III】

<p>コロナ禍の高齢者の通いの場における、シルバーリハビリ体操教室等の取り組み状況についてご報告いたします。</p> <p>令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、茨城県独自の緊急事態宣言の発出等により、当初6月から予定していた教室を9月まで中止し、10月より開始いたしました。申込制で各会場の定員を25名とし、時間を短縮し市内公共施設11会場で開催しています。感染予防対策としてマスク着用の義務付け、受付での手指消毒、体調確認、体温測定を行っています。また、教室開催時は密集を避け、十分な換気や消毒を徹底しています。</p> <p>新型コロナウイルスの蔓延により1月27日より2月20日まで、まん延防止等重点措置が発出されておりますが、感染予防対策を徹底したうえで教室を継続しております。参加されている高齢者は体操だけではなく交流も楽しみに参加されています。</p> <p>住民主体の通いの場等において社会とのつながりを持つことがフレイル予防においては重要となっており、今後も高齢者の介護予防を推進してまいりたいと思っております。</p>
